

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 25日

事業所名 ふるさとの森ひろば

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・活動をニグループに分けて行っている。	・空間を有効活用して動きやすく過ごしやすい環境作りに努めたい。
	2 職員の配置数は適切である		○	・必要時(長期休み等)は求人募集をしている。	・充実した支援が送れるよう年間を通して職員募集を続けていきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	・バリアフリー化なされていないところは職員が介助している。	・段差解消や手すり設置を検討している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・ミーティング等で振り返りを行い、より良い支援方法や接し方を検討している。	・支援に関わる全ての職員の意見を拾い上げ、同じ視点で支援できるように今後も話し合いの場を多く持つようにしていきたい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・アンケートはもちろん、日頃の意見も業務・支援の改善に繋げていきたい。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・法人で行っている。	・自己評価結果を事業所の運営と支援にいかしていきたい。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・法人で行っている。	・外部評価を事業所の運営と支援にいかしていきたい。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○	・月1回、外部から支援指導をしてもらっている。	・コロナ禍ということもあり、研修する機会が少なかったため、状況が落ち着いたら積極的に研修・勉強会に参加したい。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・保護者、学校、相談員から得た情報を基に計画を作成している。	・お子さま、保護者の方の思いに沿った実現可能な計画作りに徹底していきたい。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	・アセスメントツールはあるが、使いづらい。	・同法人の他事業所がMAS行動分析ツールを利用しているのでそれをういていきたい。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている		○	・その日の担当が立案したものを基に活動内容を検討している。	・日々のミーティングで振り返り、より良いものを常に提供できるようにしていきたい。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○	・同じ活動であっても変化をつけるようにしている。	・同じ活動であってもねらいを変えたり、同じねらいであっても異なる活動を提供したりいつも新鮮な気持ちで積極的に取り組めるように配慮していきたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・長期休みにしかできないことを活動に取り入れている。	・コロナ禍で公共の施設を利用した社会体験ができなかった。可能な範囲で色んな体験ができるよう工夫をしていきたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・新たな教材(IQパズル・知恵の輪・パズル等)を取り入れた。	・実態に合わせた教材や玩具を取り入れ、個々のニーズを実現できるような活動をより多く取り入れていきたい。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・受け入れ前に、利用人数、活動主旨、役割分担、送迎者等を必ず確認している。	・引き続き現在のミーティングを継続していきたい。また、前日の振り返りも行い、その内容を支援にいかしていきたい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・特記事項はその日に振り返り、情報を共有している。	・送迎の関係でその日にできない時もあるので、しっかりと記録にとり職員全員が共有できるようにしたい。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・活動リーダーが記録をとっている。	・支援の検証・改善に繋がられるような記録の取り方を工夫していきたい。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・必要に応じて行っている。	・今後も定期的に行い、必要に応じて行っていく。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		・年度始めには必ず全職員で読み直しをしている。	・ガイドラインを読み込み、適切な支援を提供できるようにしていきたい。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援管理責任者が参加している。	・今後も児童発達支援管理責任者と必要に応じて支援側も参加したい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・前月に翌月の利用予定者を伝え、特記事項はお互いに連絡を取り合っている。	・お迎え時にお互いの情報を交換・共有している。また、一部ではあったが夏休みに事業所に見学に来られ情報交換を行った。今後も継続していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	・受給者証に医療的ケアと記されている児童がいるが、今のところ保護者の情報のみで支援が行えている。	・必要に応じて行っていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・移行支援シートを必ずもらうようにしている。	・必要に応じて行っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・今年度同法人の就労支援に移行した際、情報提供を行った。	・必要に応じて行っていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	・同法人の児童発達支援事業の職員が参加し、報告を受けた。	・コロナ禍と受け入れ時間と重なって参加することができなかった。今後は可能な限り研修等に参加し支援力の向上を図りたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	・コロナ禍で交流が難しい。同法人の普通学校対象の放課後等デイサービス事業所との交流はあった。	・必要に応じて行っていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・代表者が参加し報告を受けている。	・参加できる時は積極的に参加し、情報を有効活用していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日々の連絡帳や送迎時に情報交換・共有を図っている。	・継続して行っていきたい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		・必要性を感じているが行えていない。学校のことや子育てについての悩みに適切な対応ができるよう研修を受けて実践していきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用契約時にやっている。	・引き続き必要に応じて行っていきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・相談を受けた時は連絡帳や送迎時に返答している。	・どんな相談に対しても保護者の方が満足のいく助言と支援ができるよう研修や勉強会を行い、支援力をつけていきたい。またペアレントトレーニングも実践できる研修等に参加したい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	・行事に親子で参加してもらい、交流する場を設けた。	・コロナ禍でできていないが、行事等参加して下さった時に交流の場を設けるようにしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・意見をいただいた時はその日のうちに対応するようにしている。	・引き続き必要に応じて行っていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・月に1回事業所便り、年に4回法人便りを発行している。	・事業所での様子が伝わりやすいよう、内容を充実させていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	○		・取り扱いには十分配慮するようにしている。	・引き続き、個人情報の取り扱いには十分配慮していきたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・利用児には簡潔な言葉で伝えるようにしている。また視覚支援も行っている。	・意思疎通や情報伝達がスムーズにできるように視覚支援や構造化を取り入れていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	・感染予防の観点から実施できていない。	・コロナ禍で実施できていないが、可能な限りで地域の方に広報する方法を見出していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	・コロナ感染予防対策はその都度保護者・職員にプリントを配布した。	・マニュアルを配布し周知徹底に努めたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に4回の事業所内災害避難訓練と年に1回の消防署立会避難訓練を実施している。	・引き続き実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	・ニュース等で取り上げられた虐待事例を職員会議で報告し、自分たちの支援を見つめ直す機会を設けている。	・事例を基に研修等を行い、虐待に繋がらない支援を行うようにしたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	・該当者がいない	・該当する者が出てきた場合は身体拘束をする必要があるかどうかをしっかりと見極め、保護者の了承と丁寧な説明を行い、計画書を作成した上で実施するようにしたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	・利用契約時にアレルギーの有無を確認している。	・食物アレルギーのある方はいないが、口腔内の状態や発達段階で食事形態が異なるので、実態に合わせたおやつ提供に心掛けている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	・その都度作成している。	・ヒヤリハットを検証し、ヒヤリハットを未然に防ぎ、大きな事故や怪我等に繋がらないように心掛けたい。	